

# 農業もビジネスも「光」が大事

～農業の現場で自らの専門分野を活かす～

株式会社ホト・アグリ 代表取締役 山田 万祐子



## DATA

創業年月 2005年9月  
従業員数 6名(パート含む)  
資本金 46,880千円  
所在地 静岡県浜松市北区豊岡町257-1  
電話 053-482-8075  
FAX 053-482-8076  
E-MAIL photoagri@mbr.nifty.com  
URL <http://www.photo-agri.com>

## 事業概要

当社の事業は3本の柱があります。まず1本目は農産物生産事業。害虫が好む光源と嫌う光源を使い分けることにより、20種類のベビーリーフが入っている商品「リッチリーフ」を無農薬で生産しています。この商品は静岡県内のスーパーやレストラン向けに出荷しており、今後首都圏のレストランにも出荷する予定です。

2本目は害虫防除光源の開発・製造事業。農産物生産のために研究開発をはじめた光源ですが、近年はマンションの害虫防除など、ニーズが建築業界などにも広がってきています。

最後の1本がリハビリ農場事業です。福祉分野における農業事業の展開を進めるため、「光技術を用いた苗栽培やベビーリーフの栽培」を高齢者施設・障害者施設に提案し、提供しています。

## 創業の経緯

私は農業大学を卒業した後、光関連の企業である株式会社浜松ホトニクスに研究員として、入社しました。入社して数年間は研究に没頭していたのですが、4年目の2004年に転職が訪れます。その年に「浜名湖花博」があり、農家にとって使いやすい光源を開発してほしいという生の声をいただいたことで、農家の方より近い立場で仕事をしたいという思いが、自分の中に湧いてきていました。

同じ年、私は小さいころからの夢であった青年海外協力隊(JICA)の試験にも合格したため、一つの決断を迫られることとなります。悩みどころでしたが、最終的には、翌年の2005年に浜松ホトニクスが中心になり設立された光産業創成大

学院大学(浜松市)が開学することもあり、大学へ出向入学して研究を続けながら、光源を活用した農産物生産で起業を目指すことになりました。

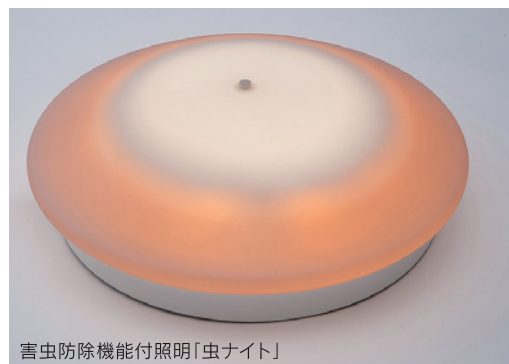
そして、2005年の9月に株式会社ホト・アグリは開業しました。

## 創業からこれまでの道筋

創業から最初の4年間は、事業と並行して、大学で研究活動も行っていたため、かなり大変でした。その間にプライベートでも長男の出産があり、多忙な日々が続きました。

当初は光源を使って機能性野菜などを栽培するノウハウや技術を当社の商品としていましたが、それらに説得力を持たせるためには自ら農産物を生産する必要があるという思いから、農場を持つことにしました。この農場から生まれた商品が「リッチリーフ」です。

一方、当社のもう一つの事業の柱である害虫防除光源は意外なところから生まれました。2008年、栽培していたベビーリーフのほとんどを虫に食い荒らされてしまったことがあったので、ベビーリーフ栽培のために使っていた光源



害虫防除機能付照明「虫ナイト」

が虫を集めてしまったことが原因でした。

1か月間は出荷もできず、意気消沈しましたが、ある時ふと思いついたのです。

「虫に光の好き嫌いがあるならば、それを活かして害虫防除などにつなげられるかもしれない」

自らの農場で実験を繰り返し、ついに害虫防除光源の開発に成功しました。試行錯誤しながら改良を進め、現在、害虫防除光源はメイン事業に成長しつつあります。

## 会社のこれからの方向性

設立当初から私を支えてくれた女性スタッフが現在もほとんど残っており、リッチリーフの生産については彼女たちに任せられる状況となっています。農場では、現在葉草を加えた新たな商品を試作中で、間もなく出荷を開始する予定です。

農産物生産をスタッフに任せられるようになったことで、私は害虫防除光源の開発に注力しています。害虫防除光源は大手が参入していない分野でもあり、大きなチャンスがあります。現在はまだ農産物生産の方が売上高に占める割合は大きい状況ですが、近いうちに光源事業が逆転する可能性もあると考えています。

また、事業拡大とは別の観点ですが、子育て中の女性が働きやすい職場、障害者の方も一緒に

働くことができる職場ということは今後も守っていききたいですね。

## 創業を目指す人へのメッセージ

事業を始めると、必ず壁に突き当たることがあります。その時にへこたれずに続けるために必要なことは、「今自分がやっていることが本当に好きなんだ」という思いです。

これから起業を目指す方は、自分がやろうとしていることが本当に好きなことか、今一度、確認してみてください。

その上で、気持ちにブレがなかったら、一歩踏み出しましょう!



社名・ロゴの由来

Photo Agri

ホト・アグリという社名は、光と農業を結び付けたい PHOTON(光)+ AGRICULTURE(農業)との思いから名付けられたものです

# 感謝を包む 手仕事を 次世代へつなぐ

一般社団法人 WATALIS 代表理事 引地 恵



「FUGURO」

## DATA

創業年月 2013年4月(一般社団法人化)  
従業員数 (理事数)3名  
資本金 なし  
所在地 宮城県亶理郡亶理町字中町22  
電話 0223-35-7341  
FAX 0223-35-7341  
E-MAIL info@watalis.jp  
URL http://watalis.com

## 事業概要

WATALISでは、全国から寄せられた着物地を、地域の女性たちの手で加工し、「FUGURO」などのリメイク商品として企画・製造・販売しています。

「FUGURO」は、亶理町の農家で御礼やお土産として米を入れて渡す際に使っていた巾着袋である「ふぐる」を現代の生活でも使いやすいように再生したもので、全国から寄せられた古い着物地を再利用して制作しています。

着物地の色柄や素材は、まさに千差万別。工房では、それに合う裏地の布や紐を組み合わせ、コントラストの効いた配色でモダンなテイストを加えることで、「FUGURO」として新たな形に甦らせ、一つ一つがオリジナルの商品として再び送り出しています。

## 創業の経緯

私はWATALISを設立する前は、亶理町の郷土資料館で学芸員として働いており、亶理町史の編纂に携わっていました。亶理町史ではじめての民俗編を取りまとめるための調査では、高齢の女性の方々から着物についてのお話を伺うことも多く、着物に込められた人々の想いを感じていました。

2011年3月に東日本大震災が発生した後、半年ほどは全国から送られてくる支援物資を受け入れ、被災した地域に配布する仕事を担当していました。その後、郷土資料館に戻り、資料調査のために被災した呉服店を訪問したとき、処分が予定されていたたくさんの着物地を見つめました。この着物地が、想いを伝える着物になる

はずだったんだろうなあという感慨が湧き、特にあてはなかったのですが、個人的に譲り受けました。

その瞬間は何も考えていなかったのですが、ふと、目の前の着物地と、それ以前の調査で聞いていた、「昔は夜なべで作った「ふぐる」にお米を入れて贈っていた」という話が頭の中でつながりました。

それで、友人などに声をかけて、「ふぐる」を再現してみようと思ったのが全てのはじまりです。新たに再生するにあたり、伝統や地域に根差したストーリーのデザイン力などで新たな付加価値を付けたいという思いから、商品名はローマ字の「FUGURO」としました。

しばらくは、個人的に「FUGURO」づくりに関わっていたのですが、現在は町役場を退職し、高校の時の友人と妹の3人で設立したWATALISで活動しています。

## 創業からこれまでの道筋

WATALISは、最初からビジネスにしようとしたわけではなく、亶理の文化と技術を次の世代につないでいきたいという思いからはじまったものです。「FUGURO」の試作品が復興イベントなどでご好評をいただいたこともあり、商品として売れる形にすれば新たな伝統工芸品として残していけるという思いから、今のような体制に進めることとなりました。

WATALISで働いているのは、経理事務やWEBの管理なども含めて全て女性です。最初は家族や同級生など身内からはじまりましたが、現在は30代～40代の主婦を中心に、製作スタッフも約30名となり、専門家の指導もうけながら、自分たちでデザインを工夫し、技術を磨き、高品質な商品づくりを実現しています。材料を家に持ち帰って制作してもらった形態をとっているため、仕事と家庭のバランスを取りながら、働く時間を自由に選択したいという女性にとっては働きやすい環境であると思います。

製作スタッフは毎週1回事務所集まり、打合せを行っています。また、近くにある亶理小学校の生徒が事務所に毎日のように顔を出すなど、被災地における新たなコミュニティとしても機能しています。

## 会社のこれからの方向性

「FUGURO」などの商品は、これまでは東京や仙台での催事販売が中心でしたが、現在は、仙台駅や仙台空港、仙台市内の大手百貨店や大手書店など、常設の売場が10か所以上となっています。WEBサイトでも販売しており、今後も販路開拓は積極的に取り組んでいきます。

また、スイスの高級腕時計メーカーとのコラボ企画で、限定モデルの特別パッケージとして「FUGURO」が採用されるなど、海外からの引き合いもあります。「感謝を包む手仕事でグローバルブランドを創っていきたい」との思いから、この2月には、ドイツで開催されたアンビエンテ(国際消費財見本市)に出展してきました。

また、宮城県に本社のある大手企業が亶理町

の工場に精米した「宮城県産ひとめぼれ」と、「FUGURO」の復興応援コラボレーションギフトが発売されるなど、「ふぐる」のストーリーが甦るような商品も生まれています。

着物地を素材として、デザインと技術力で価値を高めて再び市場に出す、「アップサイクル」の文化をこれからも創り出していきたいですね。

## 創業を目指す人へのメッセージ

WATALISは、高校時代からの友人と妹の3人でスタートした後、組織としては大きくなってきましたが、現在もチームとして非常によくまとまっています。事業を進めるに当たっては、当然困難なこともあります。仲間の存在は何よりの支えです。

本当にやりたいと思っていることに真剣に向き合っていれば、協力してくれる人は必ずいるはずで

す。そして何よりも大切なことは自ら行動すること。失敗することもあるかもしれませんが、成功するまであきらめなければ、いつか成功にたどり着くことができます。

皆さんも創業・起業に向け、周りの方の協力を得ながら、あきらめずに進んでください。

## 社名・ロゴの由来



WATALISという社名は、亶理町の「WATARI」と、お守りという意味の「TALISMAN」を組み合わせた造語です。亶理の伝統や文化を一つ一つ商品に縫い込んでお守りのように大切に、人から人へ手渡していきたいという思いが込められています。





### 1. 強い「思い」を持つ

創業・起業を成功させるためには、まず何よりも、強い「思い」を持つことが大切です。ビジネスアイデアの種が頭の中にあっても、エンジンとなる強い「思い」がなければ、なかなか動き出すことはできません。

本ハンドブックに掲載された皆さんの多くは、自分のふるさとを復興させるため、地域にない新たなサービスを提供するため、あるいは長く心の中に温めていた自分の夢を実現させるためといった強い「思い」を持っていました。

創業・起業に当たっては、今までの仕事を辞めたり、お店を構え、必要な機材を揃えるために金融機関から融資を受けたり、重要な決断をいくつもしなければなりません。

また、事業がなかなか軌道に乗らないときは、自分の判断は間違っていたかもしれないという弱気な心境になることもあります。

そのようなときでも、強い「思い」を持ち続けることで、ぶれずに前に進み続けることができるのです。

### 2. 「思い」をカタチにする

「思い」を周りの人と共有するために大事なことは、目指すべき方向や、そこへたどり着くための道筋についての「絵」を描くこと、言い換えれば、支援者や金融機関など、他の人が理解できるような形で事業の計画を作ることです。

自らの「思い」を口にして、周りの人の理解を求めることは、もちろん重要です。しかし、その言葉を他の人は常に覚えていてくれるでしょうか？ 文字となっていない言葉は意外なほど人の記憶には残らないものです。

一つ一つの言葉を推敲しながら、自らのビジネスプランを文字として事業計画に落とし込んでいく。そして、それを実現するために、必要な経費や売上予測を粘り強く積み上げる。時間はかかるかもしれませんが、しっかりとした事業計画を作ることは、創業・起業を成功させるための近道となります。

この事例集に掲載された多くの方が、創業・起業に当たり、このプロセスを踏んでいます。誰もが「大変だった」とおっしゃるプロセスですが、最も重要なプロセスでもあるのです。

### 3. 志をともにする仲間を見つける

奥様とともに飲食店を開いたり、信頼できる高校時代からの友人とともに事業をはじめたり、あるいは創業支援の専門家であるインキュベーション・マネジャーの助言を受けながら開業に至るなど、多くの方は創業・起業に至る過程で、志をともにする仲間や支援者を見つけられています。

創業までの準備を一人で全てこなそうとすれば、自ずと大きな負担を感じながら進めることになり、最悪の場合、創業を断念せざるを得ないような状況にもなりかねません。

節目での決断は、当然のことながら創業を目指す方が自ら下さなければなりません。一方で、仲間や支援者による協力は、事業を進めていく上で、何よりの支えとなります。

創業に向けて目今の課題に懸命に取り組んでいたら、いつの間にか支えてくれる方が周りに集まってきていた、というような経験は多くの方がお持ちです。仲間や支援者の手をうまく借りながら、一歩ずつ前に進んでいくことが大切です。

### 4. 成功するまであきらめない

このハンドブックで取り上げている起業家の皆さんは、「最後まであきらめなかった人々」です。誰もが創業・起業に至る過程で困難に突き当たり、悩んだり苦しんだりという経験をしています。

それでも、仲間や支援者の協力を得ながら創業に至り、事業を始めた後も、多くの試行錯誤を経ながらも、歩みを止めることなく進んでいるのです。

本書を手にとった皆さんも、自らの思いを実現する創業・起業に向けて一歩踏み出してみてはいかがでしょうか。





創業・起業に関心がある方や、具体的に検討している方であっても、「創業のためには何から手を付けたら良いかわからない…」ということがあります。

そのような場合、専門家の意見を聞きながら、一つ一つ課題を解決して進んでいく方が、スムーズに創業・起業に向けた準備を進めることができます。

ここでは、本県での創業・起業を支援するために、県や市が設置している創業支援施設を紹介します。



まずは相談！

## 青森市 21あおもり産業総合支援センター

21あおもり産業総合支援センターでは、インキュベーション・マネージャー（IM）によるワンストップでの個別・伴走型相談対応のほか、訪問型での個別相談にも対応しています。

また、創業準備作業を行うためのスペースや、創業に関する情報提供などにより、創業・起業を目指す方を応援しています。

所在地	青森市新町2-4-1 青森県共同ビル7階		
開設時間	8時30分～17時15分 毎週月～金曜日（祝祭日、年末年始を除く）		
相談料	無料		
電話番号	017-777-4066	E-Mail	sougyou@21aomori.or.jp

## 青森市 青森県よろず支援拠点

青森県よろず支援拠点では、中小企業・小規模事業者等の皆様の、創業・起業、売上拡大、経営改善、新商品開発、IT情報化など、起業から安定までの各段階のニーズに応じて、経営上のお悩みについてのご相談に対応しています。窓口での相談対応のほか、県内を巡回する出張相談会を実施しています。

所在地	青森市新町2-4-1 青森県共同ビル7階（21あおもり産業総合支援センター内）		
開設時間	8時30分～17時15分 毎週月～金曜日（祝祭日、年末年始を除く）		
相談料	無料		
電話番号	017-721-3787	E-Mail	yoroazu@21aomori.or.jp

## 青森市 青森市起業・創業等相談ルーム

所在地	青森市新町二丁目6-19 大坂漆芸2階		
開設時間	10～18時 毎週月～金曜日（祝祭日、年末年始を除く）		
相談料	無料		
電話番号	017-763-0037	E-Mail	aosoroom@jongara.net

## 弘前市 ひろさきビジネス支援センター

所在地	弘前市大字土手町31番地 土手町コミュニティパーク内コミュニケーションプラザ棟2階		
開設時間	9～17時 毎週月～金曜日（祝祭日、年末年始を除く） IMによる相談は毎週水曜日（要予約）		
相談料	無料		
電話番号	0172-32-0770	E-Mail	hbcs@jongara.net

## 八戸市 八戸市アントレプレナー情報ステーション

所在地	八戸市十三日町8番地 まちの駅はちのへ		
開設時間	11～18時 年中無休(お盆、年末年始を除く) IMによる相談は毎週水曜日の13時～16時(要予約)		
相談料	無料		
電話番号	0178-41-2224	E-Mail	antre5@p1.hi-net.ne.jp

## 五所川原市 五所川原市創業相談ルーム

所在地	五所川原市大町21-1 立佞武多の館		
開設時間	10～16時 毎月第2第4火曜日(要予約 祝祭日を除く)		
相談料	無料		
電話番号	0173-35-2111(内2552)五所川原市商工労政課		

## 三沢市 三沢市創業相談ルーム

所在地	三沢市幸町2-1-1 三沢市商工会館		
開設時間	10～17時 毎月第2第4火曜日(要予約 祝祭日を除く)		
相談料	無料		
電話番号	0176-53-5111(内281)三沢市産業政策課		

## むつ市 むつ市創業相談ルーム

所在地	むつ市田名部町10-1 むつ来さまい館		
開設時間	10～16時 毎月第2第4木曜日(要予約 祝祭日を除く)		
相談料	無料		
電話番号	0175-22-1111(内2643)むつ市商工観光課		

あおもり  
創業  
応援隊!

県の創業応援 Facebookページ  
「あおもり創業応援隊!」

県では、「青森県で創業・起業を考えている方」「創業・起業して間もない方」を応援するためのFacebookページ「あおもり創業応援隊!」を開設しています。

創業・起業に係るセミナー・イベント  
創業・起業関係の補助金情報  
その他創業・起業に役立つような情報

について、県の施策に限らず、  
広く情報発信しておりますので、是非ご覧ください!

Facebookページ「あおもり創業応援隊!」  
<https://www.facebook.com/aomorisogyo>

## あおもり型 創業実例集 「A Dream」 ～ビジネスの夢をカタチに～

平成28年1月発行

編集・発行

青森県商工労働部地域産業課  
創業支援グループ  
〒030-8570 青森市長島1丁目1-1  
TEL 017-734-9374 FAX 017-734-8107  
E-Mail chiikisangyo@pref.aomori.lg.jp

公益財団法人 21あおもり産業総合支援センター  
〒030-0801 青森市新町2-4-1 青森県共同ビル7F  
TEL 017-777-4066 FAX 017-721-2514  
E-Mail sougyou@21aomori.or.jp